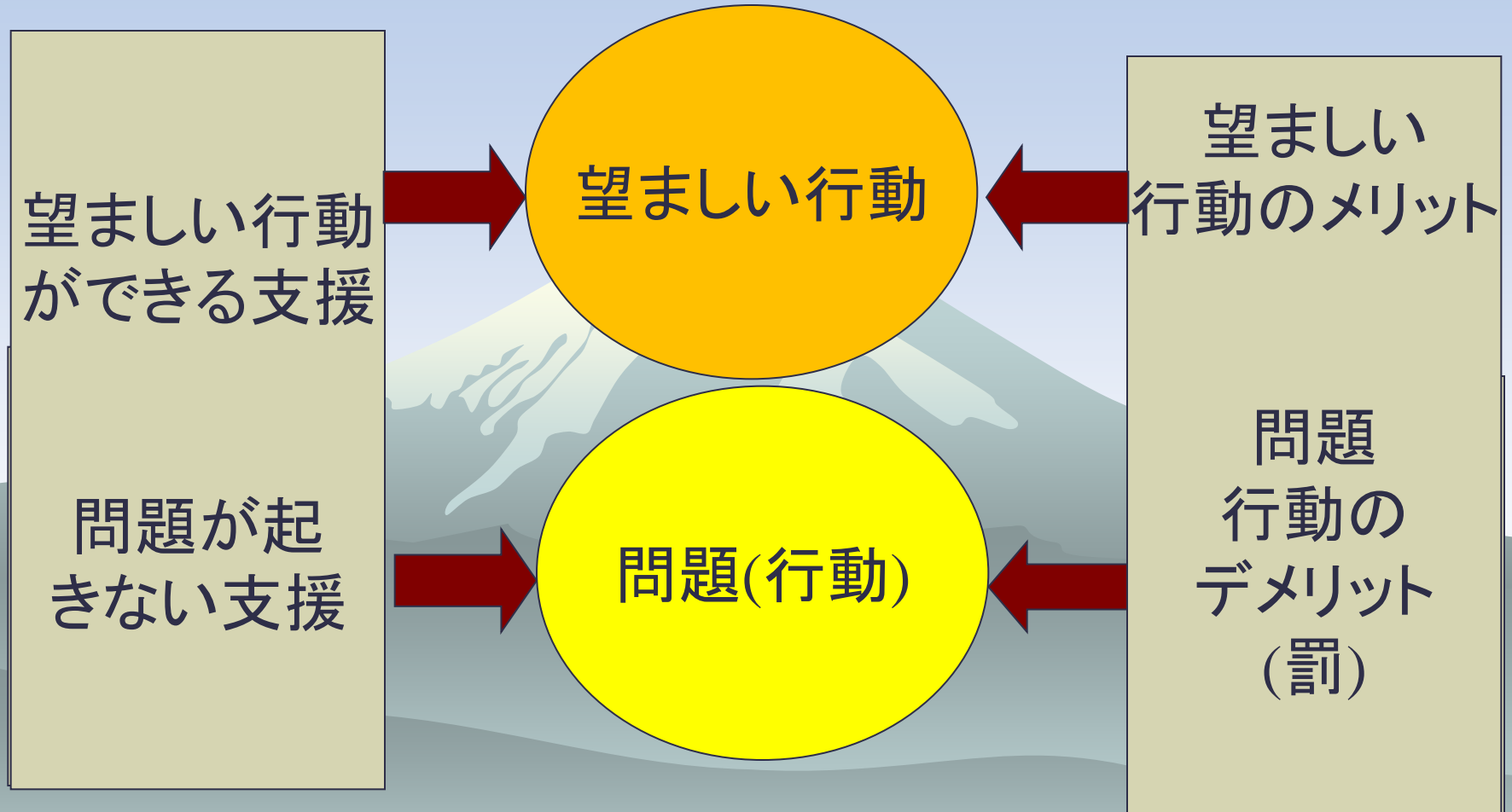


# いじめを考える

新潟大学教育学部  
長澤正樹

# 問題への対応



この理論で「いじめ」を考えると...

# 発達障害がいじめを受けやすい背景

- ◆ LD: 学習、対人関係のつまづき
- ◆ ADHD: わがまま、集団行動が苦手
- ◆ アスペルガー障害(Asp): 自己中心的、リアクションのおもしろさ、冗談が通じない、生真面目

学級内の地位の低下

いじめ

# いじめの定義（文部科学省）

- ◆ 自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの
- ◆ 子どもが一定の人間関係のある者から、心理的・物理的攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの
  - ❖ いじめか否かの判断は、いじめられた子どもの立場に立って行うよう徹底させる
  - ❖ パソコン・携帯電話での中傷、悪口も

# いじめの特質

- ◆ いじめは不可避な現象ではない
- ◆ いじめは関係性の病理である

クラス内のランキングにより関係性がゆがむ

- ◆ いじめる側といじめられる側の関係は流動的
- ◆ いじめは相手を弱い立場において被害を与える
- ◆ 見えにくさ

「やられる自分も悪いんだ」と思わせるように仕組む

- ❖ 見え方のズレ、悪意による見えにくさ、善への意思が悪意へ(例: 激励→シゴキ)

# いじめの実態

- ◆ 発生件数40,000件(2009:文部科学省)
- ◆ <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001063286>

発生件数から認知件数へ  
125000件(2007朝日新聞報道)

- ◆ 多様化するいじめ

表だったいじめから見えないいじめへ

インターネット、携帯サイトによるいじめ(学校裏サイト)  
遊びを装ういじめ(親切&シカト)  
共犯関係を演出し恐喝する

# いじめの背景(一般論)

## ◆ 我が国特有の平等意識

「出る杭は打たれる」「出過ぎた杭は引き抜かれる」

## ◆ いじめに対する誤った認識

「昔からよくあること」「経験することで強くなる」  
「いじめられる側にも責任があるんじゃない」

## ◆ 集団の中での不安心理: スケープゴート説

素性がわからない集団の中で、  
ひとりいじめのターゲットになると集団が安定する  
しかし、  
いじめはいけないと思いながらも、やらなければつぎは自分かもしれないという  
不安から、いじめはエスカレートする

# もう一つの見方

- ◆ 子どものコミュニケーション能力により、無意識のうちに同級生のランク付けがなされる
- ◆ ランクが低い子どもが被害を受けやすい
- ◆ いじめにはさまざまなタイプがあり、いじめのとらえ方は単一ではない

集団としてまとまりがない → 誰もが被害者に  
ひとりだけ異質な存在 → 特定の子どもが被害者に  
ランクが低い子どものグループ内のいじめ → 傍観者が多い  
特定の集団が暴力的にいじめ → 古典的ないじめ



# いじめにかんする見解(続き)

- ◆ クラスのランキングをきめる要因
  - ❖ 自己主張力、共感力、同調力
- ◆ 力の源 身体的な能力の優位性、信頼性(?)、エキスパート性(ICT等)
- ◆ いじめのメリット、デメリット
  - ❖ デメリットはそれほど大きくはない？
  - ❖ 救済者のリスク:味方になることが逆に…
- ◆ いじめへのさまざまな誤解？
  - ❖ いじめと犯罪を混同している
  - ❖ 学校、マスコミ、保護者の責任

# いじめの兆候(一部)

- ◆ ものをなくすようになった
- ◆ 教科書、ノートを見せない
- ◆ お金の要求が増えた
- ◆ 学校の行事に来ないでほしいと言う
- ◆ すぐに謝るようになった
- ◆ ぼーっとしている時間が増えた
- ◆ 無理に明るく振る舞う
- ◆ 学校のことを言いたがらない
- ◆ 友達の名前が出てこない
- ◆ 寝付きが悪い
- ◆ 疲労、意欲の低下
- ◆ 頭痛、食欲低下などの症状
- ◆ 投げやり
- ◆ ゲームをしなくなった
- ◆ いらいら
- ◆ 音に敏感
- ◆ 一緒に風呂に入らなくなった
- ◆ 衣服など、知らないところで洗う
- ◆ 今までと違う友達とつきあう
- ◆ 非行
- ◆ 成績低下
- ◆ 金遣いが荒い

今までとは違う様子に注意すること

「教室の悪魔」  
山脇由貴子

# 対応にかんする二つの視点

## ◆ 被害者を守る、という保護の視点

いじめられた場合(1)、(2)

## ◆ いじめをなくす、という根本的な解決への視点

人権教育、つきあい方の指導  
自己肯定感、大人の義務、コミュニケーション  
集団主義から自己決定へ

# いじめられた場合(1)

- ◆ 訴えを良く聞き、話してくれたことをほめる

「よく話してくれたね」「あなたは悪くない」  
子どもの話をすべて真実として扱う

- ◆ 学校を休ませることを考える
- ◆ 親としてのメッセージを伝える

親は子供の絶対的な味方であることを知らせる

- ◆ いじめに関して無理に聞き出さない

「教室の悪魔」  
山脇由貴子

## いじめられた場合(2)

- ◆ 家の中では明るく楽しく自然に
- ◆ いじめに立ち向かわせない

いじめられる側にも責任があるなどと思わない  
「いじめから逃げるな」→「**すぐに逃げて避難しなさい**」

- ◆ 学校に相談するのは子どもの許可を得てから

子どものプライドを傷つけない  
知られることでエスカレートすることを恐れている

# いじめた場合

- ◆ 話してくれたことはほめる
- ◆ 自分がしたことを考えさせる
- ◆ いじめは人権侵害であり、犯罪であることを告げる
- ◆ 自分の考えより、相手のとらえ方が優先されることを知らせる
- ◆ どのように償うかを一緒に考える

恐喝罪、侮辱罪、傷害罪

謝罪、反省文、奉仕活動など、自分ができる償いを

# 傍観者にならないために

## ◆「味方をしてくれる人は何人？」

立ち向かうためにはリスクが伴う  
不正に立ち向かう協力者は58%が分岐点  
できるだけ多くの協力者を確保する

## ◆ 親、教師に相談する勇気

自分の力でできないときは迷わず相談すること  
訴えるための、さまざまな手段を用意すること

いじめを報告できる手段の提供

# いじめを根本的に考える

1. 人権教育
2. つきあい方の指導
3. 自己肯定感
4. 大人の義務・コミュニケーション
5. 集団主義から自己決定へ



# (1)人権教育

- ◆ **人権教育** : 違っていても当たり前、違いを認める
  - ❖ 早期から、大人も
- ◆ **個性の尊重** : いいところを伸ばす
  - ❖ できないことを認め、できることを伸ばす

数学が苦手。でも、まじめに掃除をしてくれる

- ◆ **特別支援教育とは？**
  - ❖ 特別な対応は差別ではない
  - ❖ 違いを認め、共に生きることを教える(共生教育)

## (2)つきあい方を教える

レベル1	日常のあいさつを交わす
レベル2	日常生活に関する話題を共有する (勉強、部活など、事実に関すること)
レベル3	日常生活の裏に関する話題も共有する (悪口、恋愛、進路、軽くヤバイ話など)
レベル4	メンバーだけの秘密を共有する (悩み、価値観、人に言えないことなど)

嫌いを認め、レベルにあったつきあい方、距離の取り方を教える

### (3)こどもの自己肯定感を高めよう！

- ◆ いじめなどの問題行動は自己肯定感の喪失から
- ◆ 仕事をすることで「自分も誰かの役に立つ」ことを知る

子どものウリを見つけること

子どものウリを伸ばしてあげること

できたことをほめる(みとめる)こと

## (4)大人の義務

- ◆ いじめに関する正しい認識を
- ◆ いじめが「卑怯で卑しい行為」であることを教える
- ◆ いじめを見たときの対応の仕方を教える
- ◆ 子どもの世界に関心を持ち、口を出す

都合のいい、昔の  
「いじめ観」を捨てること

ふだんからコミュニケーションを大切に  
どんなことでも話してくれたことを認める  
子どもの自己肯定感を育てる

# なぜ言えなくなってしまうのか？

## ◆ 言えば叱られる

なぜ黙っていたの！ どうしてそうなったの！

## ◆ プライドが許さない

自分は弱い人間だと思われる

## ◆ いっそういじめられる

誤解。実際はいじめがおさまったというケースが圧倒的

## ◆ 親が心配する

じぶんだけががまんすればいいんだ

# コミュニケーションを緊密に！

- ◆ 話し合いも、ちょっとした心がけで結果が違います

子どもの話をとにかく聞くこと

子どもの気持ちを受け止めること

子どもの発言を言い換えること

教師(親)の気持ちを伝えること

「ほめること」子どもをのばす基本

当たり前  
のことを  
している  
ときこそ  
ほめるべ  
き

## (5) 集団主義から自己決定へ

### ◆ 日本人固有の集団意識・集団への帰属

もちろん良い面もたくさんある  
しかし、「規格」からはずれることへの制裁は異常である

### ◆ 自分で考え、自分できめ、自分の意思を表現することを教える

小さいときから自分で選んだり、きめたりすることと、  
結果に対して責任を負うことを教える  
子どもの自己決定を尊重すること

# いじめへの対応：事例

- ◆ 中学生女子
- ◆ 二人の間に新たな生徒が介入
- ◆ ひとりがはじき出されて不登校に

いじめられた生徒へ：居場所の確保、会わない工夫  
カウンセリング

いじめの二人へ：距離を置くことを教える  
カウンセリング

担任へ：加害者へ「違法性」の認識の教育



# Aspへの対応

- ◆ 特有の困難さ
  - ❖ 状況が読めない、他人の気持ちの理解困難
  - ❖ 「いじめられた」と勘違いすることも
- ◆ 自分が置かれている状況、トラブルの客観的な理解

認知行動療法による対応

- ◆ 周囲へのかかわり方の指導
  - ❖ 我慢するのではなく、特性にあった対応

# ADHDへの対応

- ◆ 被害者だけではなく、いじめ加害者にもなりやすい
  - ❖ 衝動性、自己否定感
- ◆ 対応
  - ❖ 自己肯定感の育成
    - ◆ 役割を与える
  - ❖ ルールの徹底化
  - ❖ 自己解決法
    - ◆ 自分がしていること、しなければならないことを考えさせる

# 私見

- ◆ 子ども、保護者への徹底した説明責任
  - ❖ いじめの定義、学校のルール、学校の対応(姿勢)
- ◆ 対応システムの構築
  - ❖ いじめられたときの学校の対応(被害者中心の対応)
  - ❖ 賞罰の導入を(特に、罰則規定を明確に)
- ◆ 予防的対応
  - ❖ SST(嫌いな人とのつきあい方など)、自己評価法、子どもとのコミュニケーション